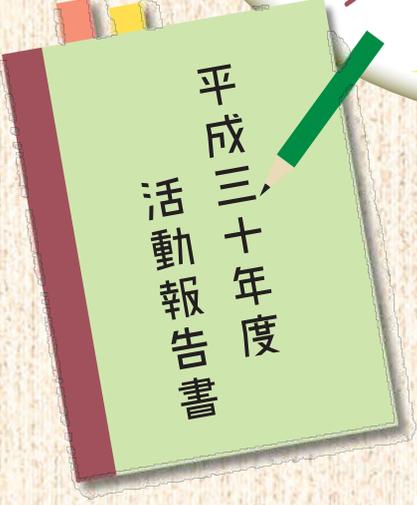




シニアが 輝くまち 小田原



平成三十年度
活動報告書



小田原市生涯現役推進協議会



生涯現役。

生涯現役 促進地域連携事業

スタート！

厚生労働省では、働く意欲のあるシニアが年齢に関わりなく働くことができる生涯現役社会の実現に向けて、「生涯現役促進地域連携事業」を推進しています。

全国からこの事業の実施団体を募集し、事業を広めることでシニア世代の就業促進に取り組んでいます。

小田原市ではこれまで、シニアが元気に活動し豊富な人生経験や知識を地域の課題解決につなげるため、シニア世代の活躍や仲間作りを応援してきました。

そこで、この取組をさらに強化するため、地域の関係団体と一緒に「小田原市生涯現役推進協議会」を設立して、平成30年7月から「生涯現役促進地域連携事業」をスタートさせました。

シニア世代の就労や、雇用促進への 6つの取組がスタート！

取組①

【生涯現役ニーズ調査】

アンケート調査により、シニア世代の就労・雇用に関する現状や希望を把握、事業展開に活用します。

取組②

【意識啓発セミナー】

生涯現役について一緒に考える機会をつくり、元気に楽しくセカンドライフを送るきっかけづくりをします。

取組③

【現場体験セミナー】

現場での仕事体験や実際に活躍している人の話を聞く機会をつくり、活躍したい人の後押しをします。

取組④

【事業所訪問】

支援員が事業所を訪問して雇用に関する現状や希望を伺い、シニア雇用に向けたお手伝いをします。

取組⑤

【事業主啓発セミナー】

シニアの力を生かして成功している企業の事例や、補助金等の制度的メリットを紹介します。

取組⑥

【セカンドライフ応援窓口】

セカンドライフでも活躍したいシニアと、シニア雇用を考える事業者からの相談を受け付けます。



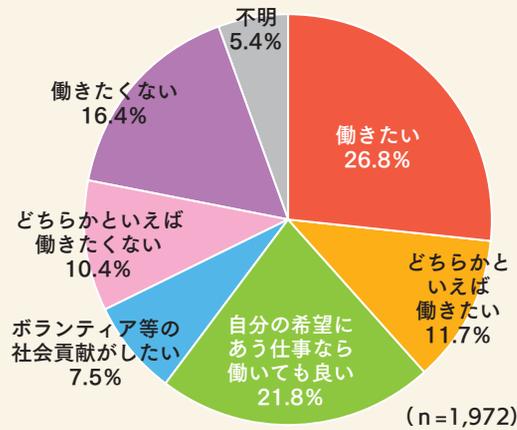
目次 contents

| | | |
|------------------|----------------------------------|---|
| ■取組① | 生涯現役ニーズ調査 | |
| | シニア世代に聞きました | 4 |
| | 事業者に聞きました | 5 |
| ■取組② | 意識啓発セミナー | |
| | 生涯現役の達人「4Daysセミナー」 | 6 |
| | からだ測定会 | 7 |
| ■取組③ | 現場体験セミナー | |
| | 子育て編…楽しく！子どもと関わるコツを探る | 8 |
| | 農業編…シニアがいま、耕作放棄で悩む現場で活躍しています！ | 10 |
| | 小田原ちょうちん製作体験 | 12 |
| ■取組④ | 事業所訪問 | |
| | 伊豆箱根交通株式会社 小田原営業所 | 14 |
| | 株式会社箱根エレカーサ | 15 |
| | 株式会社大相ビルサービス | 15 |
| ■取組⑤ | 事業主啓発セミナー | |
| | シニア雇用の達人「2Days セミナー」 | 16 |
| ■取組⑥ | セカンドライフ応援窓口 | 18 |
| ■小田原市の取組 | シニアバンク | 19 |
| ■シニアの活躍事例をご紹介します | | |
| | 株式会社シャングラース×齊藤猛さん | 21 |
| | 公益社団法人 小田原市シルバー人材センター | 〔 株式会社ファーレン小田原×三浦満さん 株式会社ヤオコー×露木重雄さん |
| | | |
| | 社会福祉法人 小田原福祉会 潤生園お出かけサポート×鈴木淑江さん | 24 |
| | 株式会社東海ビルメンテナンス×庄司俊賢さん | 25 |
| ■協議会構成団体 | | 26 |



シニア世代に聞きました

Q.まだまだ働きたいですか？



働きたい
シニア世代は **60.3%**

会社勤めが終わったり、還暦を迎えたとしても、まだまだ働く意欲があるシニア世代が多くいます。これまでの人生で培った専門性、社会性、技術を眠らせておくのはもったいない！

では実際、どのような業種や条件を希望しているのでしょうか？



ほかには
農林漁業…8.7%
情報通信業…6.6%
運輸業…5.1%
建設業…4.5%
金融・保険業…3.2%

製造、卸・小売、医療・福祉が人気

生まれたからには「何かを残したい」。どんな人でも考える欲求の1つです。それに直結する「製造業」が人気があり、ついで「卸売・小売業」といった社会と密接な関係を持ち、経済に直結する業種を希望する方もいます。さらに、超高齢化社会を支える医療・福祉関係の仕事もやりがいがあります。

- 1位 製造業…19.8%
- 2位 卸売・小売業…18.2%
- 3位 医療・福祉…16.2%
- 4位 飲食店・宿泊業…15.9%
- 4位 教育・学習支援業…15.9%

※複数回答 (n=1,188)

就労する際の重視点

- 1位 自宅から近い(通しやすい)…81.4%
- 2位 勤務日数・時間の融通が利く…66.0%
- 3位 体力的に負担が少ない…42.0%
- 4位 経験・スキルが活かせる…38.3%
- 5位 年金が減額されない働き方である…36.2%

※複数回答 (n=1,188)

「通しやすい」が
長続きのコツ？

通勤時間が短ければ、プライベートな時間も充実します。趣味の時間も大事にしながら、自分の持つチカラで社会に貢献。なにより、健康第一で。「メリハリ」と「ヤリガイ」が、充実した仕事のエッセンスなのかもしれません。

シニア世代は

週に **3~4日**、1日あたり **4~6時間** 働きたい。

78.5% ※複数回答 (n=1,188)

77.2% ※複数回答 (n=1,188)



【小田原市のシニア世代の就労に関するアンケート】

■実施主体：小田原市生涯現役推進協議会 ■実施日：2018年8月24日~9月14日

■対象者：2018年7月1日時点で小田原市に住民登録をしている満55歳以上80歳未満の方から年齢階層別に無作為抽出した5,000人

■調査方法：自記式郵送調査 回収数：1,972通 (回収率39.4%)

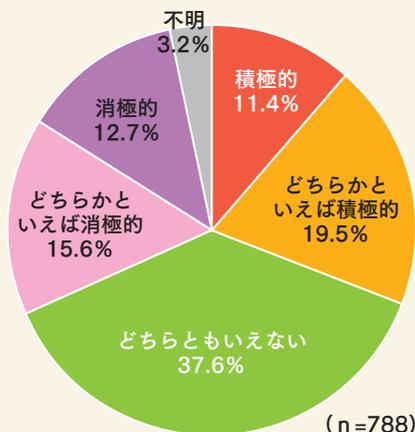
事業者に聞きました

シニアを雇いたい事業者は **30.9%**

シニア世代が今まで培った仕事のチカラを、「活かしてほしい」という事業者もいます。「持っているチカラは大したことないから…」と思っているのは、案外、自分だけかもしれません。働きたい職種やその活動をしている事業者と会い、話をしていくうちにお互いが見えてくることもあります。

まずは、お会いして、顔を見て、お話をしてみることで、それが今後の生き方にきっと影響を与えてくれるはずです。

Q.シニア世代の新規雇用について



1位 技術職…41.4%



求めるのは「**技術職シニア**」

2位 労務職…21.2%

3位 販売・接客…20.5%

4位 営業職…20.2%

5位 事務職…20.0%

※複数回答 (n=585)

事業者が求めるのは「技術職」。これまで数十年間で身についた熟練の技術は若い世代には持ちえない宝物です。活かせるフィールドは結構多いかもしれません。また、絶対的な人手が必要な販売・接客や営業職もニーズがあります。この職種では社交性が重んじられ、笑顔も大事な「チカラ」です。

シニアに望まれていることは？

まずは「健康」であること。次いで「知識」と「経験」。これまでの楽しいこともつらいことも乗り越えてきたその経験値こそが、魅力なのです。また、一度は自分が通った年齢の方々と一緒に仕事をすることもあります。シニアだからこそできる年齢を超えたコミュニケーションが、職場に新しく馴染みのある関係性を生むこともあります。

雇用する際の重視点

1位 健康であること…78.5%

2位 知識・経験があること…65.5%

3位 勤務日数・時間が条件と合致…49.9%

4位 年齢を超えたコミュニケーションができること…35.6%

5位 業務上必要な資格があること…29.6%

※複数回答 (n=585)

事業者は

豊かな経験・知識があるからシニアを雇いたい。

69.6% ※複数回答 (n=585)



【小田原市のシニア世代の雇用に関するアンケート】

■実施主体：小田原市生涯現役推進協議会

■実施日：2018年8月2日～8月24日

■対象者：小田原箱根商工会議所の会員3,147社

■調査方法：自記式郵送調査 回収数：788通 (回収率25.0%)

このような
セミナーを開催
しました

生涯現役の達人 「4 Daysセミナー」

セカンドライフでも活躍したいと考えているシニアを対象に
4日間のセミナーを開催

4日間の合計参加人数…46名



1日目 人生100年時代の到来と シニアの生き方

日時 平成30年 9月11日 (火)
14時～16時

場所 川東タウンセンター
マロニエ 集会室202

講師 株式会社ニッセイ基礎研究所
生活研究部 主任研究員
前田 展弘氏



超高齢化が進みシニアの活躍が重要視される中、シニアがどのように対応していくべきか、豊富なシニアの活動支援経験をもとにお話しいただきました。

参加者…35名

2日目 セカンドライフを楽しく過ごす コミュニケーション講座

日時 平成30年 9月19日 (水)
14時～16時

場所 川東タウンセンター
マロニエ 集会室202

講師 TMS オフィスコンサルティング
代表 猪瀬 真希氏



シニアが就労中でのコミュニケーションの大切さを学びます。またグループワーキングを通じてコミュニケーション力を高め、仲間づくりをお手伝い。

参加者…24名

3日目 あなたの体はどんな仕事に 向いてる? 「からだ測定」

日時 平成30年 9月28日 (金) 13時～17時

場所 川東タウンセンター マロニエ 集会室202

協力 株式会社リクルート

仕事をする上で体力、処理力、個性の3要素を測定する「からだ測定」を実施し、どんな仕事に適性があるかを診断して就労のきっかけに。

参加者…36名

4日目 シニアの力を求めている 仕事・活動の紹介

日時 平成30年 10月3日 (水) 14時～16時

場所 川東タウンセンター マロニエ 集会室202

担い手を求める企業や団体による、仕事・活動の紹介や個別相談を行いました。

参加者…24名



初日は、株式会社ニッセイ基礎研究所の職員による講義。超高齢化社会でシニアがいかに活躍できるかを説く内容で、「世の中は経験豊富な70代位の人材

を欲している」という事実に期待が膨らみました。

2日目は「セカンドライフを楽しく過ごすコミュニケーション講座」。あらゆる職場で必要となるコミュニケーション術を学び、3日目には働くための体力や処理力を測定。適正のある仕事を診断してもらいます。最終日は、企業や団体と個別面談。いよいよ再び働く現実味が増してきました。

「こんなに数多くのシニアが働きたいと思っているのか」。育児をしながらも、育児を終えてからも、ずっと社会に出て働いてきた岩田政代さん(70)。



働きたいシニアの数に驚き

岩田 政代さん

「働くことで社会とつながり、生活にリズムが生まれた」とイキイキと話してくれました。

参加人数...50名

このようなセミナーを開催しました

からだ測定会

体力(筋力やバランス)・処理力(記憶や読解)・個性(性格)を測定して、向いている仕事をご紹介します。

日時 平成31年 2月15日(金)
10時~15時

場所 横浜銀行小田原支店 4階 会議室
協力 株式会社リクルート・株式会社横浜銀行

【セカンドライフ応援窓口を臨時開設】

地域で仕事をしたいシニアの方や、シニアの方を雇用したい事業者の相談を受け付けました。ご希望の方には仕事の紹介もさせていただきます。



体の動きはイメージ通り?

松野 みづえさん

「よーいスタート」「はい、ストップ」。声に合わせて、会場のあちこちで早歩きをしたり腕を伸ばしたり。その中のひとりが松野みづえさん(70)。

根府川の職場で週2日働き、環境と人々の良さに癒されながら日々、体を動かすことの大切さを痛感しています。昨年ご主人を癌で亡くし「他人に迷惑をかけずに生活

参加者に聞きました

していくためにも、今の体の状態を知っておきたい」と、お友達を誘ってセミナーに参加しました。

言葉とうらはらに、往復6

メートルを早歩きする俊敏性の測定ではさっそうとした身のこなしを披露、スクワットの要領で下半身の力を測る「椅子立ち上がり」も難なくこなします。やや苦戦したのが、30秒間に金属パーツを組み立てた数で手先の器用さを測る「部品組み立て」。細かい部品が思うように指先でつまめず、「前の人がやっているのを見ていた時は『できそうだな』と思ったんだけど」と苦笑い。

5種類の体力測定を終えた後、タブレット端末で設問に答えながら処理力・個性をチェック。この日の測定結果から紹介された「向いている仕事」は、細かい作業、軽く体を動かす仕事とのこと。

頭の中のイメージと実際の動きとのギャップを実感して、「参考になりました。とても楽しかったので、また参加したいわね」。お友達とほほ笑んでいました。



現場体験セミナー（子育て編）

楽しく！子どもと関わるコツを探る

地域の子どもを育て・見守る現場では、
豊富な人生経験を持つシニアの力を求めています！

2日間の合計参加人数…10名

1日目



「子育て今昔物語」

日時 平成30年 11月28日 (水) 10時～12時

場所 市民交流センター UMECO 会議室7

内容 時代による子育て観の違いを、保育実践理論と照らし合わせながら紹介。子育て・孫育ての実体験を踏まえて、子育てや地域の子どもとの関わりの中で活用できるヒントを探り、後半は、子どもと一緒に楽しむ音楽を紹介しました。

講師 小田原短期大学乳幼児研究所

参加者…10名



歌あそびを練習

2日目・3日目

放課後児童クラブ：放課後に保護者が留守宅になる児童を見守る仕事体験（おやつ準備や自由時間には一緒に遊びながら保護者のお迎えを待ちます。）



保育園：夕方の保護者のお迎えを待つ子ども達の見守りをするボランティア体験

子どもと関わる現場体験

日時 12月に、保育園：2箇所3日間、児童クラブ：3箇所5日間の日程で
各1日2時間程度で訪問

場所 市内の保育園及び放課後児童クラブ

参加者…8名



セミナーで得た働く自信

古川 久美子さん

「娘がお世話になった地域に恩返しがしたくて」。古川久美子さん(67)は子育てが一段落したことを機に、地元の小学校に開設された放課後児童クラブに勤務。いわゆる学童保育で、55歳から約10年間にわたり児童の遊び相手などを務めていました。ところが2年前、左足骨折による入院をしたことで退職。以来、すっかり仕事から遠ざかっていました。

怪我が癒えると、だんだんと湧き上がってきた労働意欲。それで

も、「この年齢ではもう無理かな」とあきらめかけていた頃、地域情報紙に掲載されていた現場体験セミナーの広告が目飛び込んできました。『対象者は概ね55歳以上のシニア』にわかに希望が湧き、「私でも良いのかな」と参加を決意。セミナーでは小田原短期大学の教授による講義で子育てのコツを学び、保育園など実際の現場で子ども達と関わる体験もしました。

元気あふれる子ども達が相手の仕事だけに、「身体がついていかなかったらどうしよう」と参加前に抱いていた不安。けれども、3日間の日程を終えて得たのは、「もう一度やれる」という自信でした。

2年間のブランクを経て、再び戻ってきた放課後児童クラブ。子ども達に囲まれると、あっという間に昔の感覚に戻り、本の読み聞かせに大忙し。「今は人生1000年代。働く、生きることにはハリもですすね」

『放課後児童クラブ』ってなあに？

例えるなら、保育園の小学生版です。名称は地域によって異なり、「学童」と呼ぶ市町村もあります。就労、出産、長期疾病等で保護者が家庭にいない児童を預かる施設で、小田原市内ではすべて小学校内に設置されています。

市の臨時職員として運営にあたるスタッフは現在192人で、平均年齢は59.6歳(平成31年2月現在)。子育てが一段落した主婦、定年退職された男性も活躍しているそうです。仕事内容は、おやつや本の仕度をしたり、本を読んであげたり、外遊びに付き合ったり……。保育士や教員の免許は必ずしも必要なく、子ども好きであれ



ばきっと楽しく働けるはずですよ。

小田原市教育総務課放課後子ども係の深井孝洋係長によると、クラブを利用する児童は市内で1,700人以上。少子化でありながら、利用者は増加傾向にあり「子どもが好きで意欲のある方に、多く応募していただきたい」と話していました。

現場体験セミナー（農業編）

シニアがいま、耕作放棄で悩む現場で活躍しています！

このような
セミナーを開催
しました

さわやかな汗をかきながら、
農園事業の知識を身につけましょう！

3日間の合計参加人数…40名



1日目 「耕作放棄地の現状と対応 ～都市近郊のシニアの活躍事例～」

日時 平成31年 2月5日（火） 14時～16時
場所 市民交流センター UMECO 会議室4
内容 小田原ではみかん農園等の耕作放棄が進んでいます。その耕作放棄地の現状と対応について、実際にシニアが活躍している事例を紹介。
講師 青木 義隆氏（みかん農園経営） 参加者…30名



2日目 レモンの苗木の植樹体験や 地域の農産物直売所を見学

日時 2月17日（日） 9時～11時（8時45分早川駅集合）
場所 青葉農園他 参加者…25名



3日目 レモンの苗木の植樹体験や 各種柑橘類の品種比べ

日時 2月24日（日） 9時～11時（8時45分早川駅集合）
場所 みかん体験農園（シニアネットワークおだわら&あしがら運営）他 参加者…28名





現在148人の会員がいるシニアネットワークおだわら&あしがら(SNOA)。「生きがいのある、元気で健康的な生活を送って頂くための『居場所(活動の場)』の提供」を目的に設立されました。

会費は無料。おだわら市民交流センターUMECOに集まり交流したり、同好会に参加したり活動は様々。代表の安藤和幸さんは(67)は、「家から一歩出るきっかけにしてみたい」といいます。

現場体験セミナー「農業編」で



いきいき「活動の場」

シニアネットワークおだわら&あしがら

代表 安藤 和幸さん

参加者が体験したのは、会の「みかん農園プロジェクト」活動。耕

作放棄された畑を開墾して約40本の柑橘の世話をしています。相模湾を眺めながら、下草を刈ったり肥料をやったり、毎月1回2時間ほど汗を流します。秋にはお楽しみ収穫祭も。

安藤さんは「気軽にマイペースで参加していただければ結構です。皆様の入会をお待ちしています」と呼びかけます。



みかん畑で苗木植え付け。

爽やかな汗に笑顔

一夜城に向かう上り坂を進み、途中で曲がってほどなくすると現場の農園に到着です。

セミナーでは、1日目の講義で小田原市の耕作放棄地の現状等を学び、2・3日目は早川地区の農園で農業体験をしました。指導はみかん農園を経営する青木義隆さん。

相模湾を一望する畑で、参加者はグループに分かれ直径1メートルほどの穴を掘ったり土に肥料を混ぜ込んだり。1週間後には、苗木を植え支柱を立てて作業は完了。皆さん心地よい汗を流し、満足げな表情を見せていました。

参加者の平間満理子さん(71)は、自宅の庭の畑でたまねぎや春菊、枝豆などを作っているそうです。いつも図書館で野菜の育て方を調べているそうですが、今回は「農家の方から話が聞ける」とセミナーに参加。青木さんの説明に耳を傾け、「引き抜いた雑草を土に混ぜて埋めちゃいけないなんて知りませんでした」と目を丸くしていました。昨年にSNOAに入会したものの、みかん作りは収穫体験からだったそうで「今年は最初から参加します」と話していました。

太田順介さん(72)も、野菜や果物作りが趣味。「今度は柑橘類を作ってみたいと思っています。から」と参加の動機を話します。穴掘りは思いのほか大変だったそうで「ちょっと疲れたね」と笑みを見せながら、「天気も良く楽しかった。良い思い出になる」と振り返りました。



小田原ちょうちん製作体験

このような
セミナーを開催
しました

小田原の伝統工芸「小田原ちょうちん」を
知って・作って・伝えて！

参加人数…39名



▲骨組みをつくる台座の組立



完成!▶



日時 平成31年 1月16日 (水) 13時30分～16時

場所 市民交流センター UMECO 会議室1・2

内容 小田原ちょうちんの製作工程を学び、地域の小学生や観光客に小田原ちょうちんの作り方を教える活動の紹介もしました。

講師 小田原ちょうちん製作ボランティアの会
会長 井上 敦久氏

小田原ちょうちんの
歴史や三徳とよばれる3つの特徴を
紹介



「小田原ちょうちん夏まつり」でお堀に飾られる子ども達の手作りちょうちんは、ボランティアが市内の小学校を回って児童に作り方を指導した力作ぞろい。他にも、

なりわい交流館で観光客向けの体験教室(第2、第4日曜日)を開いたり、修学旅行や遠足で訪れた子ども達の指導を行ったり。思い出と一緒に、小田原の文化を持ち帰ってもらっています。

現会員は50人以上。「指導する」といってもほぼ全員が未経験からのスタートで、入会後に作り方を学びます。

「子ども達に会うのは楽しいよ」と目を細める井上敦久会長(73)。セミナーでは、小田原ちょうちんの由来やボランティア活動の内容を説明。続いて「仕事は『やらなければならぬ』ことも多いけれど、これからは自分で人生の『する』ことを選びましょう」と語りかけました。「生き甲斐にもなるし仲間もできる。関心のある人はボランティアに参加して欲しいですね」。毎日暮れの山道、細い道―だけでなく、伝統を未来へ繋ぐ道もちょうちんが照らします。

シニアによる担い手を求めています



伝統を子どもたちへ

小田原ちょうちん製作ボランティアの会

井上 敦久さん

参加者に聞きました



新しい仲間づくりのきっかけに

目時 茂さん・美枝子さん



小田原での生活はまだ4年ほど。「ちょうちん作りをきっかけに、新しい仲間を作りたいですね」とそろって笑顔を見せる茂さん(73)と美枝子さん(72)。

2人とも北海道で生まれ育ち、結婚後に何度か転勤もありましたがいずれも道内でした。茂さんの定年を機に「暖かいところで暮らしたい」と伊豆に移住し、より生活が便利な小田原に引っ越してきました。

1年のうち100日はキャンピングカーに乗り、夫婦で全国を気まま旅。「きれいな景色を見たり、現地の食材で料理をしたり、いろいろな人と出会ったり」。そんな楽しい日々もここで卒業だそうです。ハンドルを握る茂さんが、「今は問題ないけれど、慣れない土地や長距離の運転は、歳をとると危なくなるからね」といいます。

これからの楽しみのひとつに考えているのが、地域を知ること。「二宮金次郎が小田原出身ということも初めて知った」と茂さん。美枝子さんは「セミナーでは親切に教えてもらいました。道具がないと作れませぬね」とニッコリ。ボランティアの活動にも興味を持ったそうで「小学校に教えに行くのは楽しそうですね」と、出来上がったちょうちんを見ながら2人がほほ笑みます。



シニア雇用に対する現状や希望を伺い、
シニア向けの仕事を発掘します。
平成30年度は、「小田原市の雇用に関する
アンケート調査」で記名回答した
約400社を中心に訪問を実施しました。



訪問した皆様に聞きました



朝夕の通院、箱根や湯河原への観光……。伊豆箱根交通(株)の小田原営業所には、日々多くの配車依頼があります。進む高齢化、増加している訪日外国人観光客により、近年タクシー需要は大きく高まっているのです。

ところが、せっかく業界に追い風が吹いているのに、「乗務員不足でタクシーの稼働率は下がっている」と語る所長の伊藤忠さん。仕事はあるのに、ドライバーがない……。そんなもどかしい状況



働きながら地元の魅力もPR

伊豆箱根交通株式会社 小田原営業所 伊藤 忠さん

が続いているのだそうです。

この打開策として期待されるのがシニアの力。静岡県東部から神奈川県西部で事業を展開する同社では、約500人のドライバーの半数が60歳以上なのだとか。定年後の再就職先として働く人も少なくないのです。

乗客の命を預かる仕事ゆえ、「健康」は働くうえでの絶対条件。安全運転に努める真面目さも求められますが、基本的には自由度の高さが魅力の仕事です。10日間の研修があり、土地勘がなくてもカーナビがあるので未経験者も心配無用。「観光客を乗せた時は、ガイドとして地元の魅力をPRするチャンス。外国人客には語学力も生かせるかもしれないし、「お客様はどこにいるかな?」と勘を働かせるのも楽しいものですよ」。昼間だけの勤務、他の仕事と並行する「ダブルワーク」など、融通を利かせた働き方も可能だそうです。



スタッフ一同

バルコニーから望む富士山と箱根強羅の大パノラマ、源泉かけ流しの温泉……。有名旅行サイトの口コミランキング(箱根)で1位にもなった「箱根エレカーサホテル&スパ」は、スタッフ総勢9人の少数精鋭で運営しています。そのうち2人が60歳以上で、週5、6日の勤務。総務部の魚釣恵梨香さんは、「2人とも欠かせない戦力です」とニコリ。

ひとりは、高級リゾートホテルに長年務めていたベテラン。フロ

ント業務やレストランサービス、送迎車の運転ほか様々な役割を担当。もうひとりは調理補助として、イタリア料理に腕を振るうシェフやスタッフを厨房でサポートしています。いつも精力的に働いている2人ですが、「休憩を取っていただいたり、仕事が落ち着いたら早く帰ってもらったり」と、職場全体で気を配っているそうです。

「忙しいと、私たちはついせかせかしてしまう」と魚釣さん。そんな時、2人の良い意味でマイペースな仕事ぶりに、「落ち着かなければ」と気づかされることがあるそうです。「当ホテルはゆったりとした時間を過ごしていただく場所。ある意味、理想の接客ですね」

ナイトフロントのスタッフや紅葉シーズンの落葉掃除など、シニアに活躍して欲しい仕事はまだまだあるとのこと。人気ホテルのおもてなしは、豊富な人生経験が隠れたエッセンスになっています。



忙しい時こそ頼れる存在

株式会社箱根エレカーサ 魚釣 恵梨香さん



(株)大相ビルサービス外観

パートを含めた従業員数は70、80人、そのうち「65歳以上が9割超」というまさにシニアが主力の会社。小田原市を中心にオフィスの日常清掃、箱根エリアにあるホテルの客室清掃などを請け負っています。

業界は、数年前から慢性的な人手不足。難波晃取締役は「イメージで、特に若い人に敬遠されがちな職種」といいます。一方で、訪日外国人観光客の増加に伴うホテル関係の需要を含め、仕事の依頼

はひっきりなし。「仕事があるのに受けられない」。そんな悩ましい状況の解決に欠かせないのがシニア世代の活躍という訳です。

作業時間は、オフィスは始業前から数時間、ホテルではチェックアウトから次のチェックインまでの午前10時から午後2時ごろが中心。掃除機をかけたリトイレを掃除したり、ホテルでは浴室清掃やベッドメイクまで、仕上がりはもちろん時間内に終える手際よさもポイントとのこと。

「70歳以上でも元気に働いている方は大勢います。年齢はあくまで目安のひとつ」という難波さん。勤務日数や労働時間など要望に柔軟に対応しながら、今後も積極的にシニアを採用していく方針です。

小田原市のシニアバンクにも登録済みで、「企業にとっても働き手にとってもメリットがある。周知が進めばもっと利用しやすくなるのでは」と期待を込めています。



「年齢は目安のひとつ」

株式会社大相ビルサービス 難波 晃さん

このような
セミナーを開催
しました

シニア雇用の達人 「2Days セミナー」

シニアの力を活かした会社の成功事例や、シニアを雇用した際にもらえる助成金などの制度的なメリットを紹介

2日間の合計参加人数…46名

1日目



旅館経営を「IT」と「シニア」の力で変革する
「元湯陣屋」の成功事例を紹介

- 日時** 平成30年 10月29日(月) 14時～16時
- 場所** 小田原箱根商工会議所 大ホール
- 内容** シニアの活躍 × 働き方改革
- 講師** 老舗旅館「元湯陣屋」 宮崎 知子氏

参加者…29名

Profile

宮崎 知子(元湯 陣屋 代表取締役 女将)

昭和女子大学文学部卒業。卒業後メーカー系リース会社にて営業職に7年間従事し、結婚を機に退職。サービス業未経験のまま2人目の出産2ヶ月後の2009年10月に、倒産の危機にあった鶴巻温泉元湯陣屋の女将に就任。夫・宮崎富夫氏とともに業務改善のため、クラウド型ホテルシステム「陣屋コネクト」を独自開発し、ICTを活用したデータ分析とおもてなし向上を実現。2012年に「陣屋コネクト」を同業他社にむけてライセンス販売を開始。3年間で旅館を再生、8年間で売上2倍、税引前当期利益30%を達成し、2014年に従業員満足度向上の為週休2日を導入。翌年には有給休暇完全消化、2016年より定休日を3日間とし、宿泊は木曜から日曜としている。



2018年6月現在、「陣屋コネクト」は全国300施設が導入。「旅館を憧れの職業に」をグループビジョンに掲げ、陣屋コネクトユーザー同士が互いに協力しあう「陣屋EXPO」事業で、資本関係のない緩やかな連携を目指す。

2012年CRMベストプラクティス賞受賞 (CRM協議会)

2015年 攻めのIT経営中小企業百選 選定 (経済産業省) *宿泊業では唯一

2018年 はばたく中小企業・小規模事業者300社 選定 (中小企業庁)

2日目



【第一部】

求人・求職の状況や、シニアを雇い入れる
事業者に対する助成金などを紹介

- 日時** 平成30年 11月8日(木) 14時～14時30分
- 場所** 小田原箱根商工会議所 大ホール
- 内容** シニアの就労環境と雇用に関する制度紹介
- 講師** ハローワーク小田原 関口 勝弘氏

参加者…27名

Profile

㈱リクルートジョブズ
ジョブズリサーチセンター
センター長 宇佐川 邦子

リクルートグループ入社後、一貫して求人領域を担当。2014年4月より現職。各々の業界の特色を踏まえ、求人・採用活動、人材育成・定着、さらに定着促進のための従業員満足メカニズム等、「雇用に関する課題とその解決に向けた新たな取り組み」をテーマに講演・提言を行う。



【第二部】

シニアの力を上手く活用している企業の事例を
示し、新たな雇用のかたちを提案

- 日時** 平成30年 11月8日(木) 14時30分～16時
- 内容** シニア雇用に対する課題とその解決に向けた新たな取組
- 講師** 株式会社リクルートジョブズ 宇佐川 邦子氏

参加者…27名



高橋さん

藤田さん

小田原市内で福祉施設を運営する高橋直美さん(75)は、知人の紹介で「シニア雇用の達人 2Daysセミナー」に参加。シニアの採用により成功している企業の実例を聞き、「これまでの取り組みは間違いでなかった」と再認識

別のセミナーに参加したことを機に、高橋さんのもとでグループホームに勤務する藤田ナオヨさん(68)。短時間勤務ながらも出勤は午前6時と朝早いですが、「生活にメリハリがでて、時間の使い方が上手になる。やっぱり働くことって楽しい」と話していました。

したそうです。働き手が集まりにくい福祉業界で、積極的にシニアを採用してきた高橋さん。「人生経験豊富なシニアの方は人付き合いに余裕があり、障害者との接し方も上手。それが生きてきた年月なのだろうなと思う」。また、「人のために働きたい」「社会の役に立ちたい」という思いを強く抱いている人が多く、そんな姿勢は同僚の若手職員にも良い刺激を与えているそうです。「さまざまな世代が混在することで職場が活性化する。シニアの雇用で良い影響が生まれていきますよ」



シニア雇用で職場活性化

NPO法人おだわら虹の会 高橋直美さん
グループホーム勤務 藤田ナオヨさん



レジ打ち、商品陳列、惣菜調理など、スーパーマーケットの運営にはパート・アルバイトの力が欠かせません。セミナー会場で熱心に耳を傾けていたのは、県西エリアで9店舗を展開する(株)小田原百貨店・管理本部副部長の菊川哲郎さん。少子化によるアルバイト不足なども背景に、「今後さらに重要になる『シニア世代の雇用』の現状を知りたい」と参加しました。

そのほか、シニアに一歩踏み出してもらうための求人募集の出し方、活用できる補助金制度など、実践的で役立つ内容だったと2日間を振り返りました。

社会の変化とともに、消費者のニーズも変わります。シニア視点からの惣菜メニューの提案など「豊富な経験と知識をお借りして、魅力ある店舗づくりを進めていきたい」と期待を寄せます。

を活用して経営改善を果たしたと、とりわけ現場でシニア世代のスタッフもタブレット端末を使いこなしているという事例に感心した様子。スーパーマーケットでも、商品発注や品質管理など様々な面で電子機器が使用されていますが、「機械は苦手」と初めから避ける人が多いそうです。菊川さんも「年配の人には難しいかな」と先入観があったようですが、「使い方を丁寧に説明すれば、使ってもらえる」と考えを改めたといえます。



具体的事例に感心

株式会社小田原百貨店 管理本部 菊川哲郎さん



セカンドライフ応援窓口

予約不要

お気軽にご相談ください

- ・ シニアの皆さまの就労に関すること
- ・ 事業者の皆さまのシニア雇用に関すること

セカンドライフでも活躍したいシニアやシニアの力を必要とする事業者を対象に、相談員が双方のご希望をお伺いし、マッチングのお手伝いをします。



寺内さん 山田さん 武井さん 金子さん



「小田原市役所」2階市民ロビー

☎080-4569-4583

[平日]10時～16時

アクセス

小田原駅西口、小田急線足柄駅、大雄山線井細田駅から徒歩15分、または、伊豆箱根バス「市役所前」、「市役所南口」から徒歩1分

セカンドライフ応援窓口 寺内 征一さん

真摯に耳を傾けること。気軽に話してもらえるような会話のリードも大切です——という寺内さん(73)。日本とアメリカを拠点に航空業界で活躍したビジネスマンです。

相談内容の大半は、仕事を求めるものですが、「これまでの経験を生かしたい」「職種にこだわらないが社会の役に立ちたい」など要望は人それぞれ。

自身もシルバー人材センターの会員。「相談に乗ってあげる」ではなく「一緒に考えましょう」という姿勢を心がけているそうです。



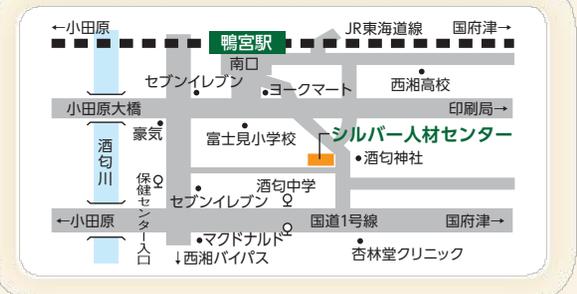
「小田原市シルバー人材センター」生きがいふれあいセンターいそぎ内

☎0465-49-2333

[平日]10時～16時

アクセス

JR鴨宮駅南口から徒歩15分、または箱根登山バス「保健センター入口」から徒歩5分



シニアバンク

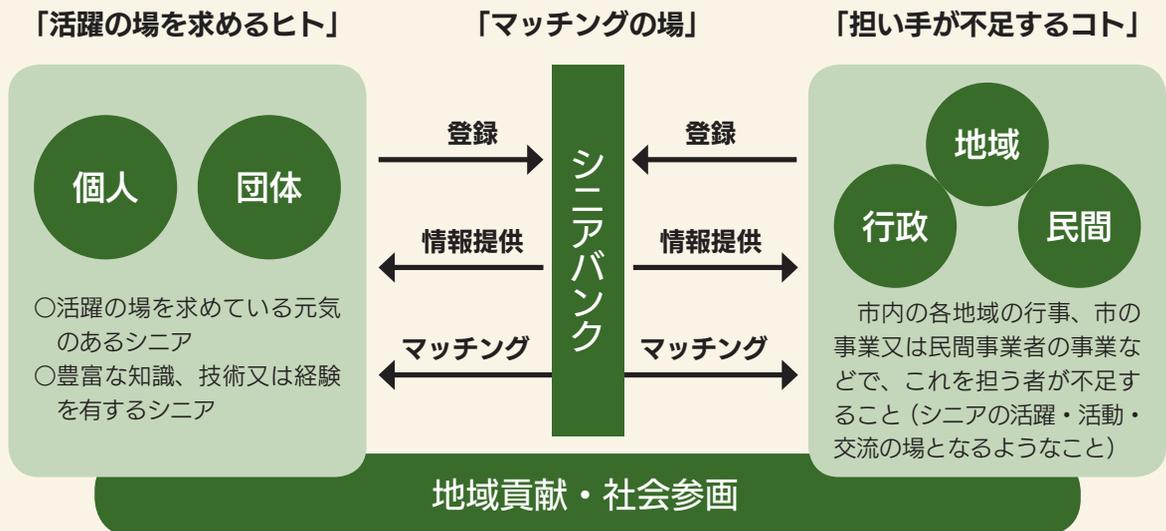
小田原市ではシニア世代になっても元気に活動を続け、地域の元気・活力につながるような生き方をさせていただくことを目的として、「シニア」と「活動」をつなぐ「プラットフォーム」となる、「シニアバンク」を立ち上げました。



シニアバンクとは

「元気・活力のあるシニア世代」と「活躍の場・いきがいくりの場」を恒常的にマッチングする登録制度です。「シニアバンク」の登録を希望する方は、「担い手が不足するコト登録申込書」(求人用)または「活躍の場を求めるヒト登録申込書」(シニアの方)をご提出ください。

シニアバンクのイメージ図



小田原市生涯現役推進協議会では、市の「シニアバンク」と連携して、マッチングを推進しています。

お問合せ

小田原市生涯現役推進協議会事務局 (小田原市役所企画政策課内)
〒250-8555 神奈川県小田原市荻窪300番地 ☎0465-33-1318

お申込み

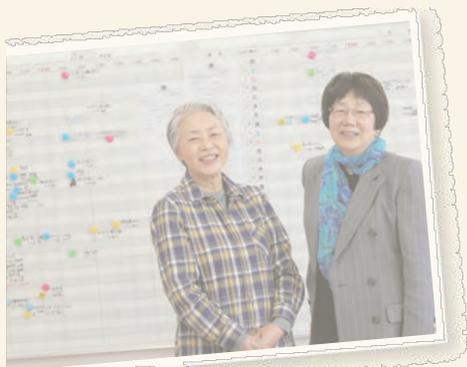
セカンドライフ応援窓口「小田原市役所2階市民ロビー」
☎080-4569-4583 [平日] 10時～16時





シニアの活躍事例をご紹介します

既に活躍しているシニアや、シニア雇用に取り組んでいる事業者にお話を聞きました。





即戦力のシニアに期待大

株式会社シャングラーズ 鍵和田 真也さん

「人手不足というわけではなかったんです」。そう語るのは、小田原市内で飲食店を経営する鍵和田真也さん。市のシニアバンクに登録したのは、「雇用の機会創出も地域貢献」と考えたからでした。

事実、これまでも従業員としてシニアを積極的に採用している同社。調理師は長年の経験がものをいう側面もあるため、飲食店はシニアが活躍しやすい職場のひとつなのかもしれません。さて、シニアバンクを通じて出会った斉藤猛さんの採用理由

は「性格の丸さ」。調理師のなかには職人気質で頑固者も多いのですが、「年長者ならではの穏やかさ、包容力」が魅力的に映ったのだとか。

実際に調理場に立っても、コッパが必要なアジの皮引き作業はベテランならではの素早さで、食材に対する知識も豊富など、その働きぶりは期待どおり。店が混雑してくると皿洗いにも積極的に参加する柔軟さや視野の広さもあり、調理場内の作業が効率化されたおかげで、「ランチタイム後にしっかりと休憩時間を確保できるようになった」と鍵和田さんは嬉しそうです。

シニアに絶大な信頼を寄せる鍵和田さんは、「いくつになっても『年寄り』というのではなく、本人の考え次第。少なくとも私は、その道ですっと一生懸命やってきた人の方が一緒に働きやすいです」と話していました。



matching



「忙しいのはイイネ」

株式会社シャングラーズ「井万次郎」調理補助

斉藤 猛さん

「地魚漬井」「天ぷら定食」、次々とオーダーを告げる声が響く厨房で、出刃包丁でススッと魚の皮を引く斉藤猛さん(79)。「ヒマなことほどツライことはない。忙しい現場で働くのはイイね」

中学卒業後、就職のため山形県から上京。鉄工所に10年ほど勤めてから、飲食店を営む親戚に誘われ寿司職人の道へ。40歳過ぎに、横浜市郊外の駅前店を構えました。「ヒマなことほど——」の言葉には、経営を軌道に乗せようと必死で頑張っていた開店当時の思いが込めら

れています。

4歳下の妻・八州子さんとずっと二人三脚。自宅のある小田原から通い、駅前の繁盛店を切り盛りしました。週の休みは1日だけ。「そろそろ(妻に)ゆっくりして欲しい」と、昨年常連客に惜しまれつつ店を閉めました。

猛さんは小田原で「技術を活かせる職場」を探しましたが年齢がネックに。そんな中、八州子さんがシニアバンクに登録したことがきっかけで、「井万次郎」での仕事が見つかりました。

仕事は週4日ほどの「ちょうど良いペース」。休みの日は海、川、溪流と釣り三昧。テグスに釣り針を付けるのも難なくこなす、「まだまだ手先は器用だよ」と誇らしげ。厨房で白い前掛けの紐を結ぶと、自然に背筋が伸びます。「体を動かしていられるのは幸せ」。眉間に刻まれたシワが、優しく緩みます。



シルバー人材センターに登録して新たな活躍の場を見つけた人もいます。



シニアの就業をサポート

公益社団法人小田原市シルバー人材センター

顧問 安川 具子さん

小田原市シルバー人材センターの主な活動は、「健康なシニア会員の就業のサポート」です。会員の対象は、小田原市在住で健康で働く意欲のある60歳以上。980人以上が会員登録しており、平均年齢は73歳、最高年齢は94歳です。

センターには、行政や民間企業などから仕事の依頼が寄せられます。商業施設のカーポート整理、草刈り、事務所の清掃、駐車場の管理、毛筆筆耕など特技を生かした仕事も。その数は1カ月で約120社。会員は「月10日以内、週20時間以内」の範囲で、

「社会の変化にどうあるべきか」

株式会社ファーレン小田原代表取締役社長

鈴木輝元さん

明るく開放的なシヨールームには受付スタッフとセールス担当者、併設のサービスイ工場には熟練の整備士……。外国車

「質の高いサービスの提供には、役割分担が大切」。洗車を担当するシニア世代のスタッフも、その一端を担っています。

を取り扱う「ファーレン小田原」のスタッフは総勢約40人。鈴木輝元社長の掲げる「人と車と環境が心豊かに共存する社会の実現」を共有し、それぞれの責任を果たしま

経営者として、常に頭の中にあるのは「社会情勢の変化に対し、未来に（会社が）どうあるべきか」。年齢に関わらず活躍できる職場であることも、その答えのひとつ。「人生経験を重ねた方と一緒に働くことは、他のスタッフの人間的な成長にもつながる」といいます。「体を動かしながら健康的に、楽しく働いていただきたい。愚痴や弱音も聞きますよ」



気配りでピカピカに

株式会社ファーレン小田原勤務

三浦満さん

「じっとしていられない性格だから」。照れ笑いを浮かべながらも、ボディーの水滴を丁寧に拭く手を動かし続けます。

「お願います」というスタッフの声で作業開始。シャンプー洗い、拭き上げ、車内清掃まで1台あたり約40分。ただし来店の目的によっては、お客様の滞在時間が短いこともあり

シヨールーム裏の作業場で、つなぎと長靴に身を包む三浦満さん（71）。以前は都内のハイヤー会社に企業役員の送迎で4年間勤めていました。快適な移動時間を提供するため1日に何

回も車を磨いたそうです。「お願います」とスを考え、お待たせしないように仕上げます。「そんな細やかな気配りは豊富な経験のたまもの。「運転席に座って、きれいになったなと感じていただければ嬉しいですね」。ピカピカになったボディーから反射する光が、笑顔



を照らします。



山田浩樹次長(左)と顧問の安川さん(右)

請負・委任またはシルバー派遣労働者として就業し、もちろん賃金も支払われます。

前理事長で現在顧問を務める安川具子さん(82)は、「仕事に真面目で丁寧。親しみやすい人柄の方も多いですよ」と企業等に向けてPR。会員も随時募集中で、「入会説明会」を毎月第3火曜日に小田原市生きがいふれあいセンターいそしぎで開催しています。就業とは別に会員向けの「シルバー体操」「英会話教室」「パソコン教室」等も開催しているそうです。「新しい仲間もできます。『明日も仕事がある』、そんな喜びを感じていただきたい。気軽にお問い合わせください」とほほ笑みます。

「車をどこに停めたのかな」。小さな事にも清々しく応じてくれる人材として、シニア世代は適材適所なのです。「露木さんは本

当によくやって頂いておられます」と赤司店長も太鼓判。同店ではミーティングを定期的に開き、シニア視点の意見を聴くそうです。業務改善につなげるもので、コミュニケーション用のノートもあり、意見がしやすい。同店は年配のお客様がショッピングカートを押して来店することも多



赤司さん(左)と露木さん(右)

「いろいろな種類の仕事がある」と勧められ、シニア人材として登録したそうです。「どんな仕事でもいい、こたわらずに

シニア世代のスタッフは13人と、採用は積極的です。「誰だって年齢を重ねるもの。むしろ社会経験を積まれた方々だから、できることがあるんです」というのが、赤司正仁店長(56)の持論です。シニア世代スタッフの業務は、カーットの回収やレジのごみ回収といった作業だけではありません。広い店内や駐車場で声を掛けられることもしばしば。「忘れ物しちやっただけど」



小田原ダイナシティの中にある大手スーパー。夕刻の賑わいの中で、露木重雄さん(74)が手際よく買い物カートをまとめていました。露木さんは若い頃は製造業の工場ラインで働き、その後は総務畑で安全や衛生向上を担当。定年後に職場の先輩だった人から「いろいろな種類の仕事がある」と勧められ、シニア人材として登録したそうです。「どんな仕事でもいい、こたわらずに



シニア世代は、経験とアイデアの宝庫

株式会社ヤオコー 小田原ダイナシティ店 店長

赤司 正仁さん



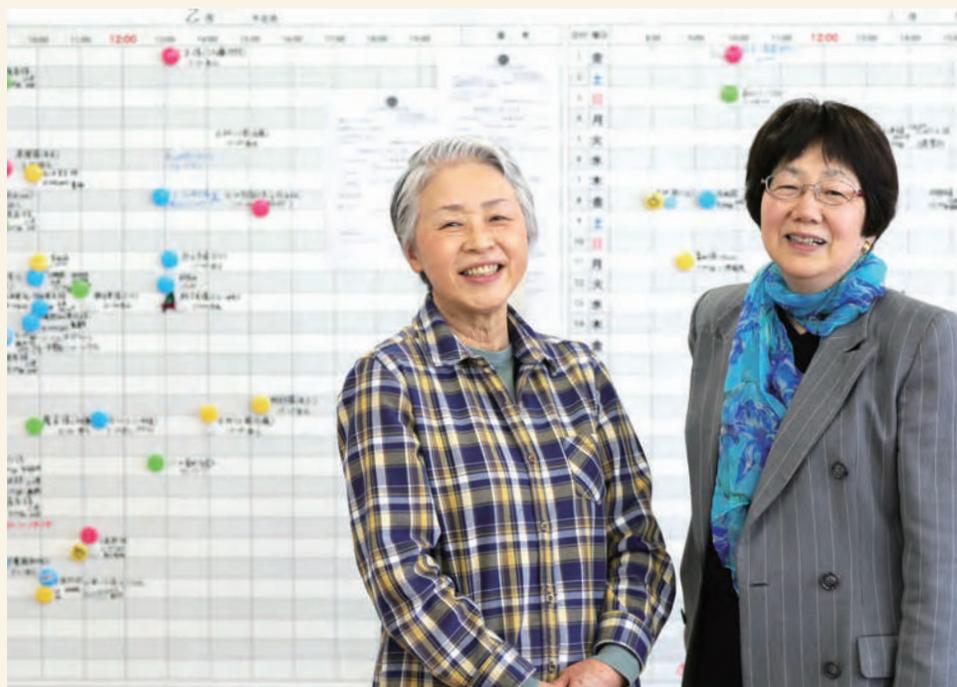
考える仕事、いい運動にも

株式会社ヤオコー 小田原ダイナシティ店 勤務

露木 重雄さん



matching



鈴木さん(左)と清水さん(右)

スナックのママは名奉行 会社勤めより良い関係かも?!

社会福祉法人 小田原福祉会 潤生園お出かけサポート
清水 三美子さん×鈴木 淑江さん

小田原市清水新田の事務所に響く歯切れの良いやり取りの声の主は、潤生園お出かけサポートの清水三美子さん(68)と鈴木淑江さん(69)。清水さんは企業を退職し、親の介護を経験。鈴木さんは会社勤め、主婦と子育て、スナックのママをやり、全体の仕事も経験して現在働いています。

2人の仕事は、高齢者のお出かけを自動車で送迎するために、人員を配置すること。利用者の希望日時を聞き、ドライバーをコーディネートします。人手が足りなかったり、女性スタッフを希望する利用者がいれば、自分たちも現場に行き、時には一緒に買い物もします。この仕事に大事なのはコミュニケーション力。移動中は車内で利用者2人きりになったり、利用者が必ずしも元気だとは限らないので、気遣い、察する力も必要です。そこで活きてくるのは、これまでの「人生経験」だといいます。スナックのママは接客業もお手のもの。話を聞いて、人を知り、さらに、主婦や子育てで培った栄養の知識もフル活用。鈴木さんは「判断力の裏付けは、今まで丁寧生きてきた経験値かな」と、多様な仕事や役割に真剣に打ち込んできたからこそ、今の自分にしっかりと

残る財産があり、働いています。決して給料が多い仕事ではありませんが、「福祉の仕事とはないものをつくること」(清水さん)。人の困っていることを助け、「ありがたうって言われたいやめられないわよ」とうれしそうに笑います。

この仕事に求める人材を清水さんに問うと「マルチな人」。仕事でも、人生でも、いろいろな経験をしてきた人は、利用者との会話が弾み、同僚ともいい関係が築けるといいます。そんな清水さんはこんな事も言います。「私、『シニア』って言葉が嫌いなんです。使っている人は無神経。年齢が高くても優秀な人はいっぱいいる。ここにいる人は『シニア』が多いけど、みんな優秀で、機転が利いて、素晴らしい関係を築いています。年齢で一括りにするこの言葉は、偏見を生むのよ。偏見は生産性に関係してくるのよ」。やり手の40代ビジネスウーマンのようなキレと情熱が言葉尻にみなぎっていました。

シニアという言葉には「高齢者」という意味の他に、「上級者」という意味もあります。初級者や中級者では持たえない豊富な経験と知識は、「上級者」だけが持つ「特別な財産」なのです。



働くことは、社会参加だ

株式会社東海ビルメンテナンス勤務

庄司 俊賢さん

大小のモップを使い分け、病院フロアの清掃を手掛ける庄司俊賢さん(66)は、昨年(株)東海ビルメンテナンスで働きはじめました。元々自営業で電気設備工事や清掃業をしていた事もあり、ここは経験を十二分に生かせる職場ですが「もっと仕事を覚えて、色々な現場に使ってもらいたい」と、学ぶ意気込みは人一倍です。

そんな庄司さんですが、一昨年に大病を患いました。病を知らされた時はまさに晴天の霹靂、悩んだ日もありました。その一方、療養生活のなかで「治ったらこうしたい」という思いが湧いたそうです。退院後、用事があって市役

所に行った時にたまたま「セカンド

ライフ応援窓口」で相談

したところ、まもなく同

社と面談すること

に。庄司さんは

体調について率直に同

社に伝えま

した。ハードワークが難しいこと

治療の影響で喉が渇きやすく、こ

まめな水分補給も欠かせないこと

勤務時間や日数なども、柔軟に

応じてもらったそうです。



なぜ働くのか、尋ねると「年金

生活という選択肢もあります

が、私は社会とのつながりを持って

生きたい」。誰に語るわけでもない

素朴な目標。多くのシニア世代を

勇気づけてくれる言葉です。



matching

働く意欲、柔軟に受け止める

株式会社東海ビルメンテナンス管理課

係長 鈴木 行人さん

当社は施設総合管理として清掃、設備、警備、マシ

ンション管理などのサービスを提供しています。年上の従業員が、社内の4〜5割を占め、庄司さんのようなスタッフも珍しくありません。「週〇日なら働ける」「〇時間なら」など、働き方も多様化してきました。そのため以前に比べてスタッフの数は増えつつあります。何より重要なことは、人数が増えてもサービスの質を均一に保つこと。庄司さんのような経験者はベースができている分、頼もしい存在

代よりもシニア層、セミリタイア層が沢山活躍していますね。その語るのは管理課の鈴木行人係長(46)。自身より一回りも二回りも

ただ、施設清掃は、建物の利用者との都合を考え、臨機応変に、そして時間内に、チームワークで動くことが求められます。

「庄司さんにもまず、当社のやり方を覚えた上で、じわじわと自分の経験を生かしてもらえたら」と期待する鈴木さん。大病を乗り越えた人を採用した理由を聞くと「誰だって歳を重ねれば、病の一つや二つは経験します」とさりげなくインスピレーションを通じて、前向きな社風を感じました。





質問1

当協議会に参加した理由



質問2

協議会事業にどのように関わっていききたいか、どのような連携をしていききたいか等



質問3

団体のPRやシニア世代の雇用・就労促進に関する取組

小田原箱根商工会議所

- 1 生涯現役促進地域連携事業の目的と当所の活動に共通するものがあつたため。
- 2 今後、少子高齢化・人口減少により労働人口が減少していく中で、企業が生産性を維持していくための取組が必要であり、協議会と連携しその課題に挑みます。
- 3 生涯現役で働ける職場づくりへの取組や、企業と意欲ある高齢者のマッチングを支援していきます。

かながわ西湘農業協同組合

- 1 地域での連携を密にする事が必要であるため。異業種との情報交流が出来るため。
- 2 今後新たな事業展開の際の人材確保のための情報交流。
- 3 地域農業の維持、発展のために労働力支援を今後、検討致します。

株式会社 横浜銀行

- 1 少子高齢化が進む10年後の小田原市を見据え、地域内の経済活動が活発であり続けるよう、働く意欲のあるアクティブなシニアの方々の活動を支援するため参加しました。
- 2 銀行店舗内における「セカンドライフ応援窓口」の臨時開設や各種セミナー等の周知など、協議会が実施する各種事業を他の構成団体と共に協力して実施していきます。
- 3 横浜銀行は、地域ごとの「将来ビジョン」を策定し、その実現に向けた継続的な取組をおこなう「はまぎん10年後プロジェクト」を進めています。小田原市をはじめとする県西2市8町では、『未病』施策と連携し、定年退職後のアクティブシニア層の移住・定住を促進し、準労働力の確保と域内消費の拡大をはかる」ことをテーマとしています。

小田原市

小田原市では、シニアが元気に活動し豊富な人生経験を地域の課題解決につなげる「プロダクティブ・エイジング（生産的・創造的な活動をしながらかをとり）」の考えのもと、シニアの就労や社会参画活動を支援するため、プラットフォームとなる「シニアバンク」の運営や「セカンドライフ応援セミナー」の開催などに取り組んできました。このような中、本事業の趣旨に賛同し、これまでの取組を強化するため、構成団体の皆さまと協力しながら地域全体でシニア世代の就業促進に取り組んでいきます。

**公益社団法人小田原市
シルバー人材センター**

- 1 シルバー人材センターの目的である、高齢者に就業の機会を確保し、提供することを実現するために、小田原市内の様々な団体と連携していくことが非常に重要であるため。
- 2 協議会の構成団体と連携して、シルバー人材センターに登録している会員が活躍できるように関わっていききたい。
- 3 現役時代に培った豊かな経験と能力をシルバー人材センターで発揮しませんか。健康で、働く意欲のある高齢者の就業をサポートする公益社団法人です。民間企業・家庭・公共機関等から軽易な仕事を引き受け、技能・技量に合わせて登録会員に提供します。健康と生きがいの充実をはかり、社会参加することによって、活力ある地域社会の発展に貢献します。仕事を通して人生を心豊かに。

〈会員募集〉

入会説明会あり（要予約）

年会費 3,000円 TEL0465-49-2333

社会福祉法人 小田原市社会福祉協議会

- 1 地域の住民同士の支え合い活動の担い手として意欲あるシニアの参加を望んでいる。
- 2 地域のニーズを反映してシニアによる起業ができれば、そこを高齢者、障害者、ひきこもり等の福祉的就労の場としても活用できる可能性がある。シニアの就労と社会的弱者の就労は親和性がありそう。
- 3 市委託のアクティブシニア応援ポイント事業が、参加者の就労や地域活動へのきっかけになることを期待している。

一般社団法人 小田原市観光協会

2019年のラグビーワールドカップや2020年のオリンピック・パラリンピック競技大会を契機として、国内外から多くの観光客が見込まれるなか、飲食店や宿泊施設などの観光分野におけるシニア世代の活躍に期待しており、本事業に協力・貢献していきたいと考えている。

シニアネットワーク おだわら&あしがら (SNOA)

- 1 2018年度、小田原市の行政提案型協働事業の実施団体に選ばれ、「セカンドライフ応援セミナー」及び「シニアバンク」を運営してきました。これらの事業を拡充するため協議会に参加し、その企画・運営に協力しています。
- 2 いきいきシニアライフに向けて、当会が気軽に集える「居場所」となるよう、役立つ情報を発信していきます。
- 3 「いい汗かいて心も体も元気」「仲間が見つかる」を合言葉に、充実したシニアライフをめざして気軽に参加しませんか。地域の活性化にも一役かっています。

さがみ信用金庫

- 1 高齢者雇用支援事業を実施するため、従業員の確保等労働力不足に悩む事業者の課題解決の一助になると考え参加させて頂きました。
- 2 協議会と連携して事業者の課題解決やシニア世代の就労、社会参画を促す事業に取り組みたいと考えております。
- 3 さがみ信用金庫は、地域金融機関として、当協議会事業を通じた地域社会の繁栄に貢献できるよう取り組んで参ります。

関東学院大学

- 1 関東学院大学は、校訓「人になれ 奉仕せよ」の下、地域社会をフィールドとした社会連携教育・研究に取り組んでいます。小田原市との関係においては、市内にキャンパスを有し、「連携協力に関する包括協定」を締結しております。この度、神奈川県「人生100歳時代の設計図」推進事業を通じて、SNOA みかん農園再生プロジェクトに参画し、本プロジェクトを通じて、学生の成長、地域課題の解決及び地域の発展に寄与できると考え、本協議会へ参加する運びとなりました。
- 2 学術専門的な知見・技術・人材育成の側面から、大学生と大学教員がシニアの皆さんと一緒に活動しながら現状調査・課題分析・改善提案に取り組めます。
- 3 2018年度は二宮咲子講師(専門:環境学・ソーシャルデザイン)指導の下、共生デザイン学科23名がフィールドワーク(写真1)を実施、協議会(図1)やSNOA(図2、図3、図4)のキャラクターデザイン、みかんの皮を使った手作りイベントプログラム開発、農業サークル立ち上げ企画(図5)等に取り組めました。



図2



図3



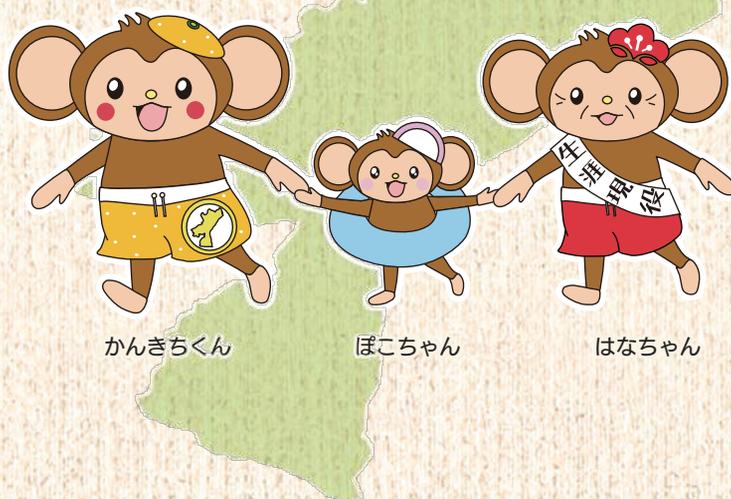
図4



図5

小田原市における生涯現役促進地域連携事業の
マスコットキャラクター

「アクティブ☆おだモン」



かんきちくん

ほこちゃん

はなちゃん

[発行元] 小田原市生涯現役推進協議会(小田原市役所 企画政策課内)

〒250-8555 神奈川県小田原市荻窪300番地 TEL:0465-33-1318 FAX:0465-33-1286

HP URL <http://www.city.odawara.kanagawa.jp/secondlife/>

E-mail geneki@city.odawara.kanagawa.jp

※本紙の掲載内容は2019(平成31)年3月現在のものです。

